



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

11月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤 尚子

負けたくない気持ち

副園長 本橋 房子

10月15日の運動会は、学年別ではありましたが久しぶりにたくさんの方にご参観いただくことができました。保護者の方の温かな眼差しや拍手を受け、子どもたちにとってとても嬉しい日となりました。ありがとうございました。

運動会に向けての活動は、走ったり踊ったりと体を動かすことで運動的な力が育ちます。それだけではなく、様々な感情や考えも経験することにより、心が大きく育つ機会でもあります。

4歳児の玉入れ、5歳児のリレーは、勝敗がある競技です。子どもたちも観客もどちらが勝つかとドキドキし、応援にも力が入ります。結果として勝敗はありますが、子どもたちの真剣な表情、途中まで負けていてもあきらめずに力を出し切ろうとする姿、仲間を応援する声や勝負した相手にも拍手を送る姿は見ている人の胸を打ちます。

初めは、負けると「もうやらない」と言う子や「どうせまた負ける」とつぶやく子もいました。でも、勝ったり負けたりすることも含めて楽しんでほしいと思い保育者は関わります。まず「負けて悔しかったね」とその子の気持ちに寄り添います。それから、「玉をすぐ拾って投げられるようになったね」とか「バトンを落とさなくなったよね」など前よりも頑張ったこと、できるようになったことを言葉で伝え自信をもてるようにします。そして、「やっぱりやりたい」「勝ちたい」と思えるような雰囲気作りにも努めます。5歳児では、どうしたら勝てるか考えを引き出し、それを具体的に意識できるように働きかけます。その中で子どもたちは、よりよいやり方を考えたり、何回もしてみたり、最後まで諦めないでやり遂げようとする姿へと変わっていきました。

「負けたくない。勝ちたい」という気持ちは、「頑張りたい」という向上心とつながっているのだそうです。結果がよかったときは、「結果と頑張った過程の両方を認める」、思ったような結果にならなかったときは、「頑張った過程を認める」ことで、勝っても負けても次にまた頑張ることができるようになっていくといえます。

運動会で勝ち負けはあったけれど楽しかった、自分の力を出して頑張れた、自分がしたことを認めてもらった、という経験が、今後も「思うようにいかないことがあっても次は大丈夫かもしれない」と自分を奮い立たせる力につながることでしょう。私たち大人はその子の取り組んだ過程にしっかりと目を向け、伝えることで支えていきたいですね。

—今月の指導のめあて—

- 〈3歳児〉
 - ・遊びや生活の中で、自分でできることが増えてきたことに喜びを感じ、進んでしようとする。
 - ・身近な素材を使って見立てたり、自分なりにイメージして作ったりすることを楽しむ。
 - ・保育者や友達と関わる中で、自分の気持ちを動きや言葉で表そうとする。
- 〈4歳児〉
 - ・気の合う友達と遊ぶ中で、自分なりの思いやイメージを言葉や動きで表し、相手にも思いがあることに気付く。
 - ・お話しごっこや楽器遊びなど学級のみんなでする活動に取り組む中で、自分なりの動きや表現を楽しむ。
 - ・秋の自然や栽培物に触れながら、季節の移り変わりに気付き、取り入れて遊ぶことを楽しむ。
- 〈5歳児〉
 - ・遊びの中で、友達と思いや考えを出し合い、イメージを共通にしたり、伸び伸びと表現したりすることを楽しむ。
 - ・自分の目標に向かって繰り返し取り組んだり、友達とルールのある遊びをしたりして、いろいろに体を動かすことを楽しむ。
 - ・季節の変化を感じながら秋の自然に興味や関心をもち、自分から関わろうとする。

